



お江戸舟遊び瓦版 1083号

水彩都市江東 ころも美しい日本の再生 安全・安心まちづくり
お江戸観光エコシティ・お江戸舟遊びの会 江東区千田 13-10

「みどりのカーテン」準備の土づくり講座

日時：2025年2月2、9日

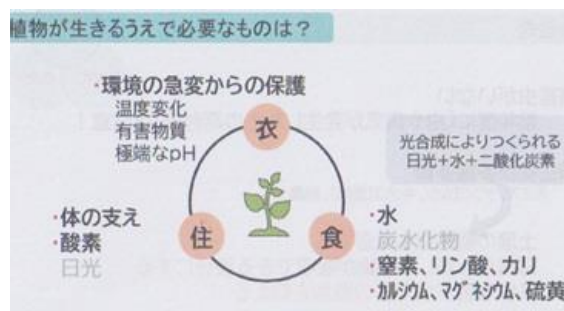
所：江東区文化センター、亀戸商工情報センター
主催：えこっくる江東、運営：江東エコリーダーの会
本多会長挨拶：暑い夏を涼しく、また楽しませてくれた「みどりのカーテン」たちに感謝し、土のリサイクル・チャレンジ講座を開催します。



I. 土の役割—土と植物の関係 池田利行（樹木医、樹木診断室、緑化コンサルタント）

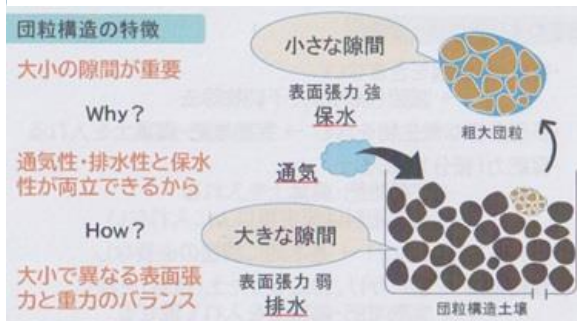
① 植物が生きていくうえで必要なものは？

衣：環境の急変から保護：温度変化、有害物、PH
食：水、炭水化物、窒素・リン酸・カリ、カルシウム、マグネシウム、硫黄
住：体の支え：日光、酸素、二酸化炭素



② 植物にとって理想の土とは？

- i. 生物性：病虫害がない、微生物が多種多様
ミミズ、ダンゴムシ、キノコ（菌類）、細菌が土を攪拌
- ii. 化学性：適度な養分、有害物質なし、適 PH
- iii. 物理性：
 - 保水性：養分やホルモンは水に溶けて移動。
 - 通気性・排水性：水はけが悪いと酸欠・衰退。
 - 適度な硬さ：ふかふかだと植物を支えられない。



理想的な物理性「団粒構造」：

団粒構造は、大小の隙間が重要

II. 土づくり体験講習： 江東エコリーダーの会

- i. 成長には物理性が最も重要：フルイで「みじん」を取り除き、ビニール袋に入れて熱湯で細菌を殺菌する、又は天日で干し 60° 以上（熱湯共）で殺菌すること。良い菌も悪い菌も死滅するので、殺菌後に腐葉土や堆肥を入れて混ぜること。
- ii. 育てるには化学性が重要：有機物を入れてタイミングをコントロール。水やりが重要。
 - 肥料の量：多すぎると肥料やけがおこる。○養水分は濃度が薄い方から濃い方へ出入りする。



必要な道具・土・肥料を準備



古い土をふるいにかける



苦土石灰や肥料を加え

「破綻必至の日本の原子力政策と核燃料サイクル」

日時：1月30日 10:30～12:30

主催：原子力資料情報室 <https://cnic.jp/>

講師：松久保 肇 (原子力資料情報室事務局長)

はじめに

核燃料サイクルは、崩壊していると言われる中で、政府は原発再稼働を言い続け、再処理工場稼働を進めている。1993年工場建設に着手し、2006年から使用済み核燃料を使ったアクティブ試験に入ったが、08年に国産技術で開発したガラス固化施設で躓いたまま、今日に至っている。



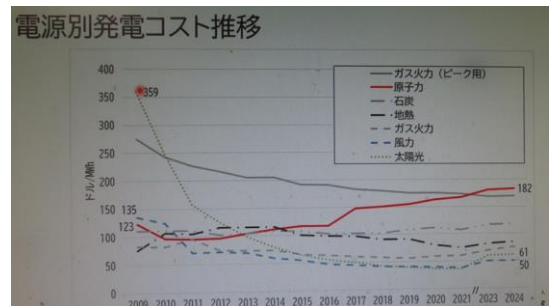
1. 原発再稼働による電気料金への影響

第39回原子力小委員会において、国際的な燃料価格高騰で電気料金が上昇しているが、原発再稼働している四国、九州電力では安くなったと説明した。しかし、再稼働に要する費用は修繕費・安全対策など莫大で、却って上昇の傾向にある。



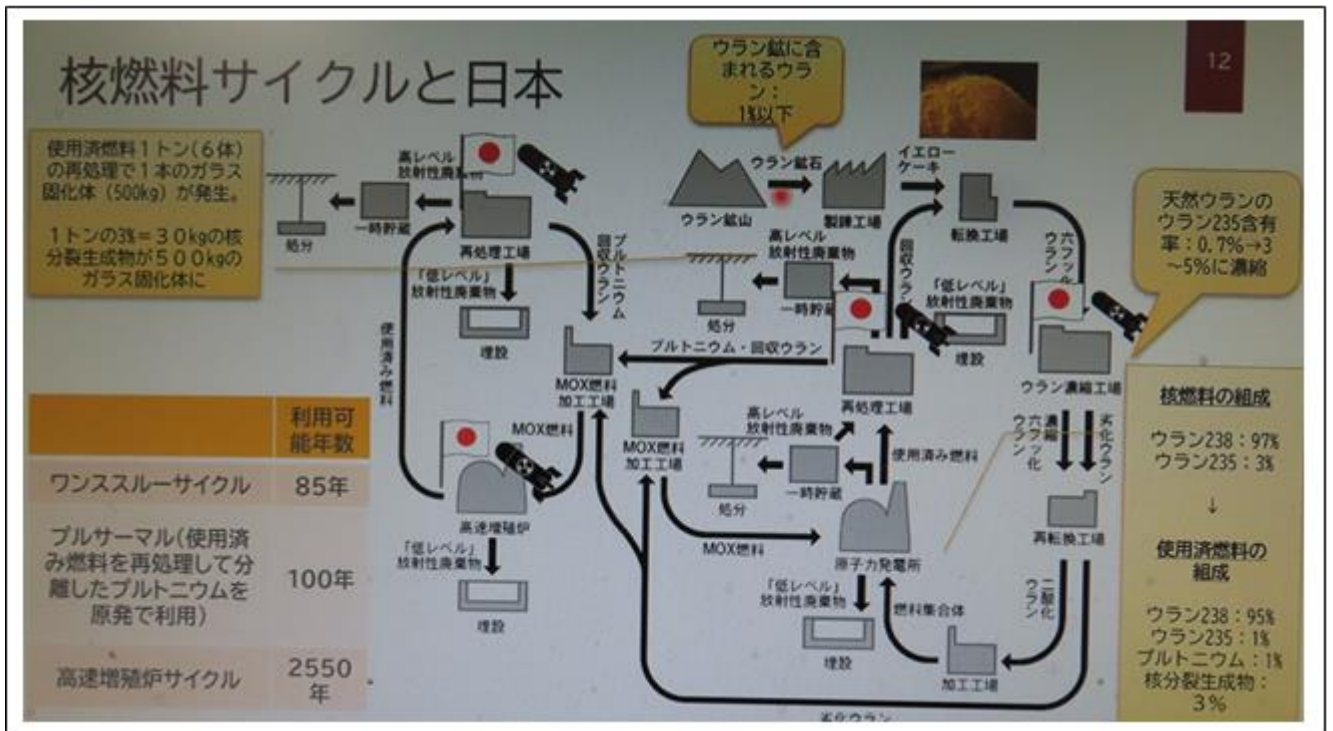
2. 近年の電源別発電コスト

原発建設コストは世界的に増大傾向になり、電源別発電コストをみると原発は182ドル/MWHに対し、風力や太陽光発電は50～61ドル/MWHとなっており、原発が安いと言っているのは日本だけで、外国では撤退傾向にある。



3. 六ヶ所核燃料サイクル施設

1993年、原子力発電所で使い終えた燃料を再利用する「核燃料サイクル」のウランやプルトニウムを取り出す「再処理工場」の建設は六ヶ所村で始められたが、本格稼働には至っていない。完成すれば年間800トンの使用済み燃料を処理して、7～8トンのプルトニウムが生産すると言われているが、トラブル続きで27回も竣工延期を繰り返している。フランスなどは撤退し、もはや破綻必至で不可能ではないかと言われているが、政府はしがみ付いている。



所感：止められなかった太平洋戦争同様、原発・核燃料サイクルも日本人には止められないのだろうか？ 原発再稼働より再エネへのシフトこそ日本の生きる道ではないだろうか。(文責 中瀬)